

わたしたちの人権

77

だれもが人間として生きていく権利を侵すことのできない当然の権利これが「人権」です。

先月号で、「5・23差別をなくす山都地区集会」を紹介しました。その中で大人の参加者にアンケートにこたえてもらって、初の試みを行い、約100名の方々から、とても大事な感想や意見をいただきました。全てを紹介することはできませんが、一部をご紹介します。

「差別とはいつまでたっても無くならない事に、自分の無力さを感じてしまします。…今回、小さいうちから知っておくと言うのも必要だと感じました。あらゆる差別をなくしていくには、長い時間、たくさんの人達とのかかわりや努力で出来ることだと思います。自分の考え、意見を周りを気にせず伝えていく環境を、私たちが作ってあげられる、そんな風になっていきたいです。」【20代・女性】

「差別は被差別部落だけに向けられるものではなく、日常生活の中であらゆる状況の中に起こりえるものです。人は誰でも弱いところがあり、皆で思いやりをもって、弱い立場にある人を支え合う心を持つ子ども達になって欲しいと思います。子ども達に（大人も含め）この会で、差別について考える時間を与える意味は深いと思います。」【40代・女性】

「部落差別をはじめあらゆる差別をなくすという方向性や活動に連帯します。発表して

いく子ども達の姿に差別をなくす具体的な差別の生き方をイメージできましたし、また、今後の自らの学習への意欲、実践への意欲も高まりました。同和教育運動や部落解放運動は、私の生き方にかげがえのない熱と光をもたらしてきました。これからも学び、動きを続けていきます。ごころうさまです。」【40代・男性】

「この山都町で信じられない町議の発言がありました。何ということだといかりを持ちました。逆はこの発言が「差別はあるんだ」ということを明らかにしたと思います。だから町民が本当のことを知り、自分から差別をなくす意識、行動へと進んでいかなければならないと、更に感じました。」【40代・女性】

「2回目ですが、本日新しく学んだことがたくさんありました。同和保育所の子どもの作文、小・中学生の発表をきいて「うま

れながらに差別心を持っている」というのは絶対ないと、改めて感じました。正しく学ぶことで正しい認識・人権感覚が身につくと思います。私たち大人は、子どもたちに教える前に、まず自分自身はどうか、再度見つめなおす必要があるように思いました。今年も参加して本当によかったです。」【30代・男性】

季節のうた

▼通潤句会

かなかなに背中押されて朝仕事
風鈴の音に迎へられ無人駅

広津まち子
菊池 幸子

▼清和短歌会

拙きはつたなきながらの吾が短歌いそしみ綴るあり
し命を

藤島 みつ

▼寄り添って短歌の会に歩を運ぶ二人の老いの微笑ま

しかり

梅田 市子

▼庭先に明るきポピーの花を植ゑひっそりと住む家を

訪ね来

増田 信治

▼馬見原酔山会

ねじ花に背中伸ばせと教へられ
屋根を打つ音は水無月コンサート

岩永 周子
渡辺 勝子
岩永 博

▼やまなみの会

五月晴家族となりし鶏十羽
田水張り戻る夕べの初蛙

草樹 清萌
佐野 信江

▼番犬をたよりに山女飼ふ一家

水仙の花一刻に並び咲き朝陽を浴びて道
辺彩る

飯星セチ子

▼原っぱに次つぎと出るせんまいに負けし

伸びしている

木下スエオ

▼野や山の恵みの雨に若葉伸びそよ風の中

初夏の潤い

田代 エミ

8月の当番医

- 8月7日 高田整形外科 (電話72-1007)
- 8月14日 坂本クリニック (電話72-0210)
- 8月21日 伴 病院 (電話72-0029)
- 8月28日 野田 医院 (電話72-0307)

山都町の人口

(平成23年6月30日現在)

男	8,643人 (-17)
女	9,261人 (-14)
計	17,904人 (-31)
世帯	6,749戸 (-6)

- ※()は前月比
- ※最高齢は105歳(女性1人)
- ※1月1日~6月30日の出生届数 53人(うち6月は7人)
- ※1月1日~6月30日の死亡届数 142人(うち6月は20人)

北原白秋祭 献詩募集

国民的詩人として親しまれた、詩聖北原白秋の偉大な業績と威徳を偲ぶ白秋祭。11月2日に行われる白秋祭で献げる詩を募集しています。

- 形式
自由詩(字数・内容など制限はありません。ただし未発表の自作品に限ります。)
B4版400字詰原稿用紙を使用してください。応募点数は一人2点までです。
- 応募部門
小学生の部 ・中学生の部

- ・高校生・一般の部
- 募集期間
8月1日(月)~9月9日(金) 必着
- 問い合わせ先
柳川市教育委員会学校教育課 教務係
〒832-8555
福岡県柳川市三橋町正行431番地
電話0944-73-8111
Email:gakko@city.yanagawa.lg.jp
http://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/



和光教室書道部の宮谷文子さん(鶴ヶ田) 作

編集後記

ブルーベリーは、春・夏・秋と違う面を見せます。種類の違いはありますが、春は白く可憐な花を咲かせ、夏は青い果実をたわわにつけます。そして、秋には葉が赤く色づき、見事な紅葉を見せてくれるのだとか。その移り変わりを楽しみに植えられる方もいるそうです。片倉農園でいただいた摘みたての実の驚きのおいしさ。水道町スイーツ7つのうち2つをいただきましたが、そのうまさにさらに驚き。残り5つを自分へのごほうびとするため、苦しい編集作業に立ち向かった7月でした。(F)

いました。くしくも今、原発の事で差別をうけたり風評被害に苦しんでいる人達がたくさんいるので、少しでも力になればと思います。」【50代・女性】

「社会人となり、久々に参加いたしました。子どもの頃と比べ、大人になり参加して差別に対しての考え方相手の気持ちを考える心、人と人は平等であり、誰一人差別されることはできないと強く強く思うようになっていきました。これからも、その気持ちをずっともち続けて行動で表したいと改めて思う集会となりました。」【20代・女性】

「毎年、集会に参加してきました。子ども達は真つ白な心なのに、差別の心にそめていくのは大人です。とても残念です。集会に参加した、こんな子どもたちの輪が、広がっていくことを願っています。今日は私の心もさわやかです。」【60代・女性】

「子ども達の発表で、リボン登校の意味や同和保育園への思い、差別の歴史から同和問題を自分のこととして捉えることができました。自分にできることを自分の言葉で発表する子どもたちの発表に、差別と向き合い、立ち向かっていく力が湧いてきました。」【50代・女性】

「狭山事件の県民集会の想いを受け継ぐ集会がここ山都町で行われることは素晴らしいと思いますし、改めて、自分を大切に生きる、命を大切に、人生の重さを感じます。次元の高い考え方ができるよう、自分も鍛えていきたいです。」【30代・女性】

「初めてこの集会に参加しました。この集会は「5・23狭山県民集会」の想いを受け継ぐ集会と、配布されたパンフレットに書いてありました。大人ばかりではなく、保育園児

から中学生がたくさん集まることで、狭山事件の姿、人権とは何か、差別とは何かを考える良い機会であると思います。多くの中学生がステージで意見を発表しました。私はその中でも解放子ども会中学部の、山都町議会における差別発言に対する作文が一番印象に残りました。」【40代・男性】

「来民開拓団を満州へ送りこんだ思想と、「部落がなくれば差別はなくなる」という思想は全く同じだと思った。「何が正しいか、自分の頭で考える」ことが大切。真実を伝えることが、私たち大人の使命だと感じた。解放子ども会の決意表明と共に差別をなくすために、一緒に行動したいと思った。この場に立つことは、部落出身の子どもにとっても、部落外の子どものにとっても、立場宣言につながる。揺れもあつただろうと思う。その気持ちに寄り添える自分でありたいと思う。」【40代・男性】

「子どもたちの発表をきつかけに、自分自身のありようを考えることができました。他の人の思いをきき、重ねていくことで、自分自身が少しずつ変わっていくかと思えます。何が正しいのか、ほんとうのことを自分の目で確かめ、行動できる人間になりたいと思います。」【30代・女性】

この集会は、部落差別をはじめ、いじめや仲間はずしなどのあらゆる差別をなくしていくことを目的に、子どもたちが主体となりながら、大人とともに学び合う場です。来年も5月に開催されますので、皆さん参加しましょう。